

2023年5月1日

乳がん検診、乳腺外来 受診者 各位

公益財団法人東京都予防医学協会
がん検診精度管理中央委員会

新型コロナウイルスワクチン接種に伴う反応性リンパ節腫大について

新型コロナウイルスワクチン接種後、接種した側の腋窩リンパ節が腫れることが報告されています。これは抗体を作成するために免疫機能が働いている兆候なので病気ではなく、心配はいりません。

ただし、乳がん検診や乳がん術後の外来で、マンモグラフィや超音波などを受ける場合に判定や診断に影響を及ぼす恐れがありますので、お知らせいたします。

こうしたことから、日本乳癌検診学会より「乳がん検診にあたっての新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応の手引き Ver.3」

http://www.jabcs.jp/images/covid-guide_202210.pdf が示され、「ワクチン接種後の乳がん検診について、必要以上に間隔を空けることを推奨しない。可能であれば乳がん検診は、ワクチン接種から4～6週間の間隔をあけることを考慮してもよい。」とされました。

なお、その時期は絶対に検診を受けてはいけないということではありません。その時期でないと受けられないようなご事情がある場合には、受付に「〇〇日前にコロナワクチンを接種した」と最終ワクチンの接種日をお伝えください。ワクチン接種後であることを考慮して判断させていただきます。

不明点等がございましたら担当者にお尋ねください。

〈本件に関するお問い合わせ先〉
看護部 電話 03-3269-7011